

## 5. 学生サークル活動

### 5-1 宇都宮大学環境改善学生サポーター（ECHO）

農学部 3年 中山 康暉

#### ■はじめに

わたしたちは宇都宮大学の教職員と協働しながら、宇都宮大学を基点として環境活動を行う学生団体です。特に、学生ならではの柔軟な発想と知見を活かして活動すること理念に活動を行っています。

#### ■活動紹介

##### 1. 環境系イベントへの出展

わたしたちの環境活動や宇都宮大学の環境活動を地域の方にも知ってもらうために、9月下旬に行われた「もったいないフェア 2017」、11月上旬に行われた「ECO テック&とちぎ 2017」という宇都宮市で行われている環境系イベントで展示発表を行いました。どちらのイベントでもわたしたちが作成している ECOSTYLE や環境シラバスといった冊子やリ・リパックの実物の展示などを行いつつ、ECHO の活動についてまとめたパネルを用いて説明を行いました。

「もったいないフェア 2017」では、他のイベントと比べて参加者は小さなお子さんが多いため、分かりやすくごみ分別ゲームを行うなど、イベント毎の来場者の年齢層に合わせた活動を行うことでより多くの人が環境に興味を湧かすような工夫をECHO全体で行いました。



イベントの様子

##### 2. 宇都宮大学周辺でのゴミ拾い

大学周辺の環境改善と学生の環境意識改善のために、毎年、年に2回ほど大学の周辺のゴミ拾いを行っています。

この活動を行う際には、学内のゴミ分別だけでなく、宇都宮市のゴミ分別について復習と理解を深めることで一人暮らしを行っている学生のゴミ分別改善にも繋がるように意識をしながら行いました。特に私たちに身近な道を中心に行い、参加者の環境意識が向上するように心がけました。



ゴミ拾いの様子

##### 3. エコ学祭プロジェクト

大学祭である「峰ヶ丘祭」におけるゴミの排出量の把握や減量のための方策の考案、峰ヶ丘祭出展団体へのエコ容器リ・リパックの販売、学祭参加者への環境改善啓発活動のために活動を毎年行っています。

また、峰ヶ丘祭のゴミ分別は“リ・リパック、汚れたプラスチック、きれいなプラスチック、可燃ごみ、ビン・カン、ペットボトル、段ボール、ペットボトルキャップ、割りばし、食べ残し、燃えないごみ(危険ごみ)”で、家庭でのごみの分別基準(家庭ごみ)ではなく、大学のごみの分別基準(事業系ごみ)で行うため、来場者への分別指導を行っています。



分別指導の様子

来場者の協力や各出展団体の尽力もあり、徐々にごみ分別への協力も得られ、よりよい活動運営ができるようになってきました。

#### 4. 学内環境プロジェクト

学生がいままで以上にリ・リパックの分別を行いやすくするために、回収容器の統一化を行いました。昨年度までにリ・リパックを除いた大部分のゴミ箱はどの建物でも同じものを使うようにしました。しかし、リ・リパックについては各建物で回収容器が異なり、回収を呼び掛けるときやリ・リパックを分別して回収するときにはかなり分かりにくい状態であり、間違えて異なるゴミ箱に捨ててしまうことも多く確認されました。そのため、統一化をすることで分別を伝えるときの伝えやすさや間違えて異なるゴミ箱に捨ててしまう事が減少しました。



リ・リパック回収の様子

#### ■ 今後の展望と課題

わたしたち宇都宮大学環境改善学生サポーターECHO には先陣を切って環境活動を行い、多くの学生に環境への意識や理解を高めてさらにほかの学生たちに伝播させていくという目的があります。社会に出ていく手前の段階の大学生という立場で多くのことを学んでおくということが、これからの未来にとっても重要であるからと考えるためです。これからも学生という立場を十分に活用しながら環境に対するさまざまな改善策や解決策を提案していきたいと思えます。

#### 主な環境系講義一覧（環境シラバスより抜粋）

講義名	代表教員名等	学部等
実線・宇都宮のまちづくり	宇都宮市環境部職員	基盤
環境と生物化学	池田 幸	基盤
農業と環境の科学	斎藤 潔	基盤
生物資源の科学	平井 英明	基盤
環境教育	松居 誠一郎	基盤
里山のサステナビリティを考える	松居 誠一郎	基盤
環境と国際社会	高橋 若菜	基盤
森林生態学	大久保 達弘	農学部
環境評価システム論	菱沼 竜男	農学部
基礎土壌学	平井 英明	農学部
用排水処理技術	酒井 保臈	工学部
大気概論	酒井 保臈	工学部
環境基準論	長谷川 光司	工学部
応用化学概論	辻 正道	工学部
応用化学特別講義	辻 正道	工学部
環境工学基礎	諸星 知広	工学部
住環境論	陣内 雄次	教育学部
環境と国際協力	高橋 若菜	教育学部
環境と国際協力演習	高橋 若菜	国際学部
環境と国際協力	高橋 若菜	国際学部
地球環境政策論	高橋 若菜	国際学部

LOMO(local motivation)は、「環境問題に対して学生が自らの手でできることから始める」ということを目的とし、主に家具・家電の回収を行う環境系サークルです。

#### ■活動紹介

LOMOの活動は、環境問題を資源の再利用によって改善していこうという考え方のもと平成18年より開始しました。卒業する一人暮らしの学生から家具や家電を引き取り、新入生に格安で販売するガレージセールを主にしております。

峰キャンパスから半径2km以内に限り回収を行っていますが、大学からリヤカーを借りて回収することで、環境に配慮し排気ガスを出さないことに努めています。

日々の活動をとおして、ロフトベッドなどの家具の組み立てや家電メーカーなどの知識、回収や販売の取引なども身に付き生活に必要なことが学べるという点でも、私たち学生にとって有意義な活動内容となっています。

ガレージセールの頻度としては、3・4月の卒業や入学の時期は、毎週土日に春季のガレージセールとして行い、その他の月は、月に1回行っています。また、夏から冬の間は春季のガレージセールに向けての計画や家具の整理を行うとともに、これまでの活動を改善するための方策などを話し合っています。なお、不要品の回収は時期を問わず受け付けています。



回収の様子



販売の様子

#### ■今後の展望

これまで多くの学生や地域の方に回収依頼をいただき、活動を続けられることに感謝しております。これからも学生や地域の方と環境のためにより良い活動を目指していきます。

新しい取り組みとして、平成29年の秋ごろから古本回収を始めました。サークル内では、紙パックや自転車などの回収品目を増やす案も出ています。これらに対し具体的な実施方法などを決め、LOMOの活動が環境改善に対してより専門的で広い視野を持ったものとなるようにしていきたいと思っております。

### 5-3 宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)

農学部 4年 柏瀬 郁菜  
工学部 3年 寺井 孟

宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)は、宇都宮大学生が生活の中で環境を意識するきっかけを作れるよう、大学・大学生協と協力しながら活動を行っています。

#### ■活動紹介

##### 1. リサイクルされる内製弁当の容器(Dappy!!)と割りばしの回収

宇都宮大学生協ではオリジナル弁当を販売しています。この容器には「リ・リパック」というリサイクル可能な容器を使用しています。宇都宮大学では、「Dappy!!」という愛称で呼ばれています。また、食堂や購買で使用している割りばしは「樹恩割りばし」というものです。この割りばしは国産の間伐材を使用しており、リサイクルすることでパーティクルボードや紙として再利用することができます。

これらの回収を宇都宮大学環境改善学生サポーターECHOと協力して毎月行っています。



容器と割りばしの回収

##### 2. 好読会

大学生は本を読む機会が減ってきてしまっています。そこで、私たちは学生が読まなくなってしまった本を集めて自由に読める場を作りました。利用する方に読まなくなってしまった本を捨てるだけでなく古本としてリユースすることができることを知ってもらえればと考えています。今後も陽東キャンパスの石井会館で継続的に行っていきたいと思っています。



古本のリユースの様子

##### 3. ペットボトルの分別の促進

大学生は分別をせずに捨ててしまう方も多いということなので、身近なものから分別を意識してもらおうとペットボトルを用いた企画を考えました。ペットボトルを捨てるゴミ箱を2つ用意し、あるなしクイズを解いて当てはまる方に投票するというものです。その際には必ずラベルとキャップを外して分別するようポスターを用いて呼びかけを行いました。



ペットボトル分別の促進の様子

#### ■今後の展望

環境に関する意識は簡単に変化するものではないと考えているので、これからも大学や大学生協と協力しながら活動を続けていこうと考えています。また、学生の目線で新しい活動にも取り組んでいこうと思います。